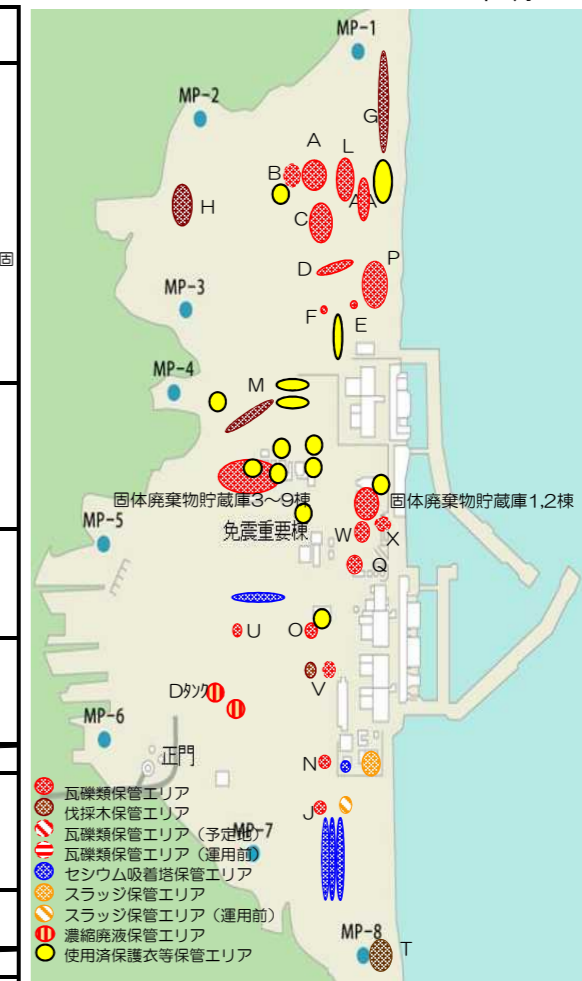


分野名	括り	作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後1ヶ月の予定	5月				6月				7月				8月		9月		備考	
				24	31	7	14	21	28	5	12	19	26	上	中	下	末				
保管管理計画	2. 保管適正化の推進	除染装置 (AREVA) スラッジ	(実績) ・スラッジ対処方法及び除染方法検討 ・除染装置系統フラッシングおよび造粒固化体貯槽 (D) 除塩	検討・設計	スラッジ対処方法検討																・スラッジ除染方法検討完了 2018年6月27日
			(予定) ・建屋内除染	現場作業	建屋内除染																・建屋内除染 2019年5月7日～2020年12月予定 ・除染装置系統フラッシングおよび造粒固化体貯槽 (D) 除塩 : 2018年9月10日～2020年3月27日
	ALPSスラリー安定化設備	(実績) ・安定化設備の設計検討	検討・設計	安定化設備の設計検討																	
		(予定) ・安定化設備の設計検討	現場作業																		
3. 瓦礫等の管理・発電所全体から新たに放出される放射性物質等による敷地境界線量低減			(実績) ・一時保管エリアの保管量確認/線量率測定および集計 ・ガレキ等の将来的な保管方法の検討 ・線量低減対策検討 ・ガレキ・伐採木の保管管理に関する諸対策の継続	検討・設計	一時保管エリアの保管量、線量率集計				一時保管エリアの保管量、線量率集計				一時保管エリアの保管量、線量率集計								
			(予定) ・一時保管エリアの保管量確認/線量率測定および集計 ・ガレキ等の将来的な保管方法の検討 ・線量低減対策検討 ・ガレキ・伐採木の保管管理に関する諸対策の継続	現場作業	ガレキ等の将来的な保管方法の検討																
				検討・設計	線量低減対策検討																
				現場作業	一時保管エリアの保管量確認、線量率測定																
4. 固体廃棄物の性状把握			(実績) ・【研究開発】固体廃棄物のサンプリング・分析 ・【研究開発】JAEAにて試料の分析 (現場: JAEA東海等) ・分析試料のJAEA東海・民間分析施設への輸送	検討・設計	【研究開発】固体廃棄物のサンプリング・分析																・これまでの分析結果は以下のウェブページにまとめられている https://fukushima.jaea.go.jp/hairo/work/tech-info.html
			(予定) ・【研究開発】固体廃棄物のサンプリング・分析 ・【研究開発】JAEAにて試料の分析 (現場: JAEA東海等)	現場作業	【研究開発】固体廃棄物のサンプリング																・多核種除去設備の運転状況に応じて順次試料を採取
				現場作業	【研究開発】JAEAにて試料の分析 (現場: JAEA東海等) 瓦礫の分析等 (α核種、β核種、γ核種)																瓦礫: 建屋瓦礫を分析中。
				現場作業	汚染水 (滞留水、処理水、建屋スラッジ) の分析等 (α核種、β核種、γ核種)																汚染水: 建屋滞留水を分析中。
5. JAEA分析・研究施設の整備 (施設管理棟、第1棟、第2棟)			(実績) ・第1棟建屋現地工事 連絡通路等工事 (連絡通路内装工事(継続)、1,2,3階ダクト工事(継続)等) 主要内装設備等工事 (鉄セル等の搬入・据付等)	検討・設計																	・2017年 3月 7日: JAEA分析研究施設第1棟 実施計画変更認可 (原規規発第1703071号) ・2020年 5月20日: JAEA分析研究施設第2棟 実施計画変更認可申請
			(予定) ・第1棟建屋現地工事 連絡通路等工事 (連絡通路内装工事(継続)、1,2,3階ダクト工事(継続)等) 主要内装設備等工事 (鉄セル等の搬入・据付 (継続) 等)	現場作業	第1棟工事連絡通路等工事、主要内装設備等工事																【施設管理棟】 ・2018年 2月28日: 竣工 ・2018年 3月15日: 運用開始
				現場作業																	【第1棟】 ・2017年 8月 7日: 杭工事完了 ・2018年11月15日: 地上1階躯体工事開始 ・2019年 3月15日: 地上2階躯体工事開始 ・2019年 7月22日: 地上3階躯体工事開始 ・2019年11月 7日: 鉄セルの搬入・据付開始
				現場作業																	

瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2020.5.29時点)

分類	保管場所	保管方法	エリア境界 空間線量率 (mSv/h)	保管量	前回集約からの増減*1 (2020.4.30 - 2020.5.29)	変動*2 理由	エリア 占有率	保管量*3 / 保管容量 (割合)	トピックス	
瓦礫類	屋外集積 (0.1mSv/h以下)	A	屋外集積	0.25	300 m ³	-100 m ³	⑤	0%	212000 / 266500 (80%)	<ul style="list-style-type: none"> フランジタンク解体片 2020年5月末時点でコンテナ1,043基保管。 エリアP1コンテナ数: 627基 (2015年6月15日~) エリアAAコンテナ数: 416基 (2018年3月15日~) エリアAの運用変更により、保管容量 (13,800m³) 増加。 (2020年1月) エリアAは1~30mSv/hの瓦礫類を仮設集積中。これら瓦礫類を固体庫に移動後、低線量率瓦礫類一時保管エリアとして使用予定。
		B	屋外集積	0.01	5,300 m ³	0 m ³	—	100%		
		C	屋外集積	0.01未満	63,300 m ³	微増	②③⑧	100%		
		F2	屋外集積	0.01未満	6,400 m ³	0 m ³	—	85%		
		J	屋外集積	0.01	6,200 m ³	0 m ³	—	78%		
		N	屋外集積	0.01未満	9,600 m ³	0 m ³	—	96%		
		O	屋外集積	0.01未満	44,000 m ³	0 m ³	—	86%		
		P1	屋外集積	0.01未満	56,400 m ³	+700 m ³	①④⑧	88%		
		U	屋外集積	0.01未満	700 m ³	0 m ³	—	100%		
	V	屋外集積	0.01	6,000 m ³	0 m ³	—	100%			
	AA	屋外集積	0.01未満	13,700 m ³	+300 m ³	⑥	38%			
	シート養生 (0.1~1mSv/h)	D	シート養生	0.01未満	2,600 m ³	0 m ³	—	58%	42700 / 71000 (60%)	<ul style="list-style-type: none"> エリアWでの車両解体 (プレス等) 完了。(2018年1月)
		E1	シート養生	0.02	14,300 m ³	0 m ³	—	89%		
P2		シート養生	0.01	5,800 m ³	0 m ³	—	64%			
W		シート養生	0.03	12,100 m ³	微減	①②⑤	41%			
X		シート養生	0.01	7,900 m ³	0 m ³	—	65%			
覆土式一時保管施設、 容器 (1~ 30mSv/h)	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	16,000 m ³	0 m ³	—	100%	17900 / 24600 (73%)	<ul style="list-style-type: none"> 主な瓦礫類は、1~3号機工事等で発生した瓦礫類。 覆土式4槽の受入開始に伴い、保管容量 (4,000m³) 増加。 (2018年5月) エリアAの運用変更により、保管容量 (7,100m³) 減。 (2020年1月) 	
	E2	容器*4	0.01未満	1,200 m ³	0 m ³	—	68%			
	F1	容器	0.01未満	600 m ³	0 m ³	—	99%			
	Q	容器	0.04	0 m ³	微減	⑤	0%			
固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物貯蔵庫	容器*4	0.01	22,400 m ³	+300 m ³	①⑤	47%	22400 / 48000 (47%)	<ul style="list-style-type: none"> 主な瓦礫類は、1~3号機工事等で発生した瓦礫類。 固体廃棄物貯蔵庫9棟の運用開始に伴い、保管容量 (33,600m³) 増加。 (2018年2月) 	
合計 (ガレキ)				295,000 m ³	+1,200 m ³	—	72%			
伐採木	屋外集積 (幹・根・枝・葉)	G	屋外集積	0.01未満	25,300 m ³	0 m ³	—	63%	97000 / 134000 (72%)	
		H	屋外集積	0.01未満	31,700 m ³	0 m ³	—	74%		
		M	屋外集積	0.01未満	39,600 m ³	0 m ³	—	88%		
		V	屋外集積	0.01	400 m ³	0 m ³	—	7%		
	一時保管槽 (枝・葉)	G	伐採木一時保管槽	0.01未満	26,200 m ³	0 m ³	—	88%	37300 / 41600 (90%)	
T	伐採木一時保管槽	0.01未満	11,100 m ³	0 m ³	—	94%				
合計 (伐採木)				134,300 m ³	0 m ³	—	77%			
保護衣	屋外集積	容器	0.02	41,400 m ³	-2,800 m ³	⑩	61%	41400 / 68300 (61%)	<ul style="list-style-type: none"> 使用済保護衣等焼却量 7,673t (2020年5月末累積) 焼却灰(プラスチック含む)のドラム缶数 1,873本 (2020年5月末累積) 	
合計 (使用済保護衣等)				41,400 m ³	-2,800 m ³	—	61%			

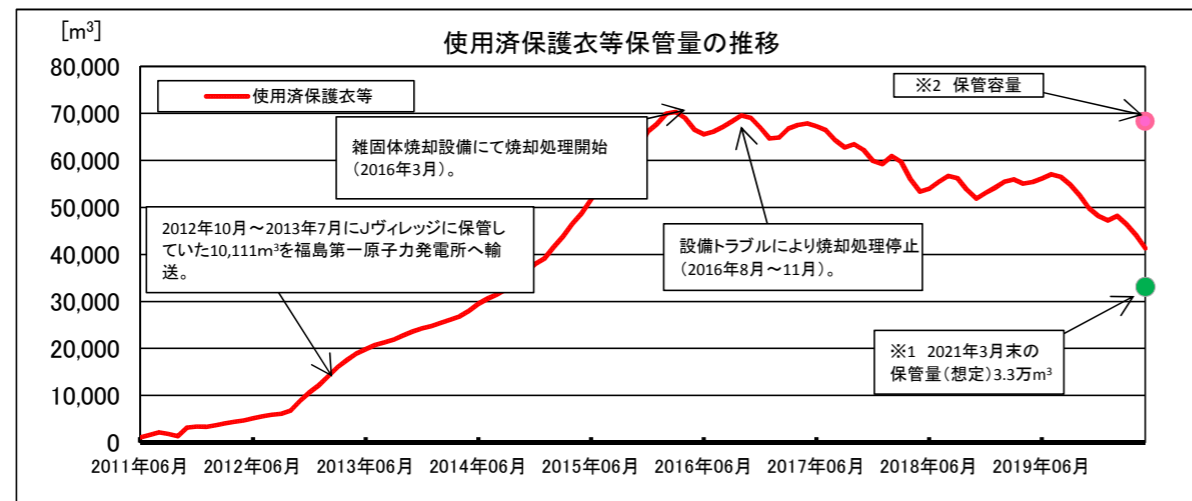
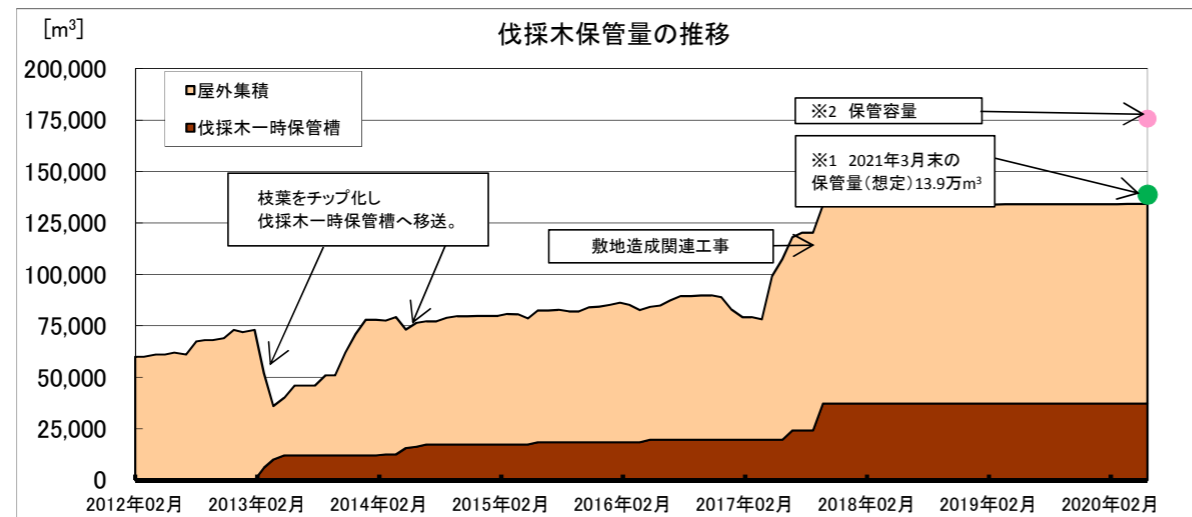
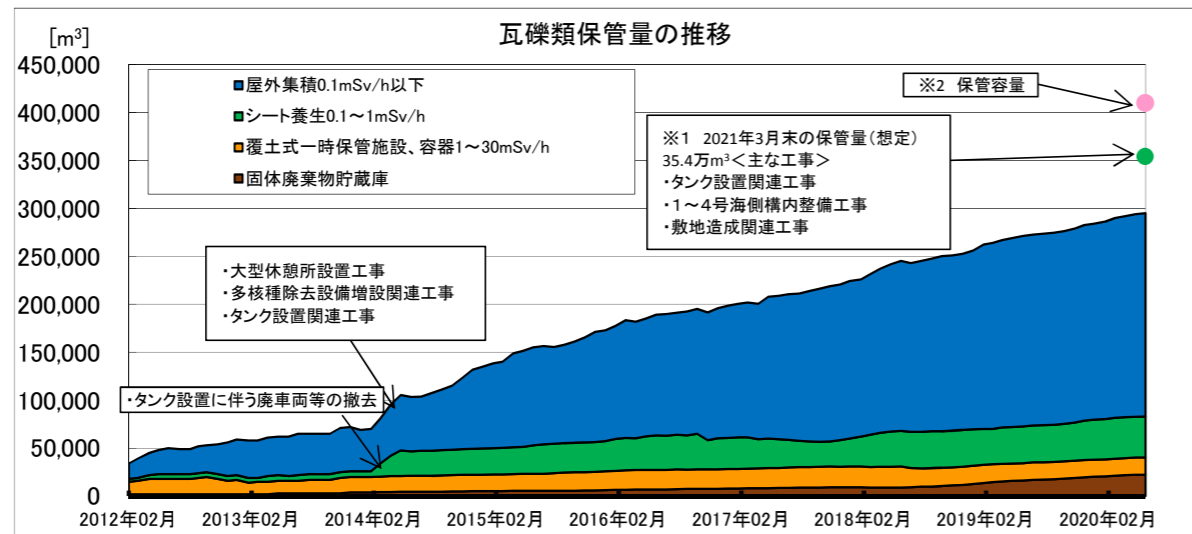
※1 100m³未満を端数処理しており、微増・微減とは100m³未満の増減を示す。
 ※2 主な変動理由: ①1~4号機建屋周辺関連工事 ②タンク関連工事 ③敷地造成関連工事 ④構内一般廃棄物
 ⑤エリア整理のための移動 ⑥フランジタンク除染作業 ⑦伐採木受入 ⑧港湾関連工事 ⑨水処理設備関連工事 ⑩焼却運転
 ※3 端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。
 ※4 水処理二次廃棄物 (小型フィルタ等) を含む。



水処理二次廃棄物の管理状況(2020.6.4時点)

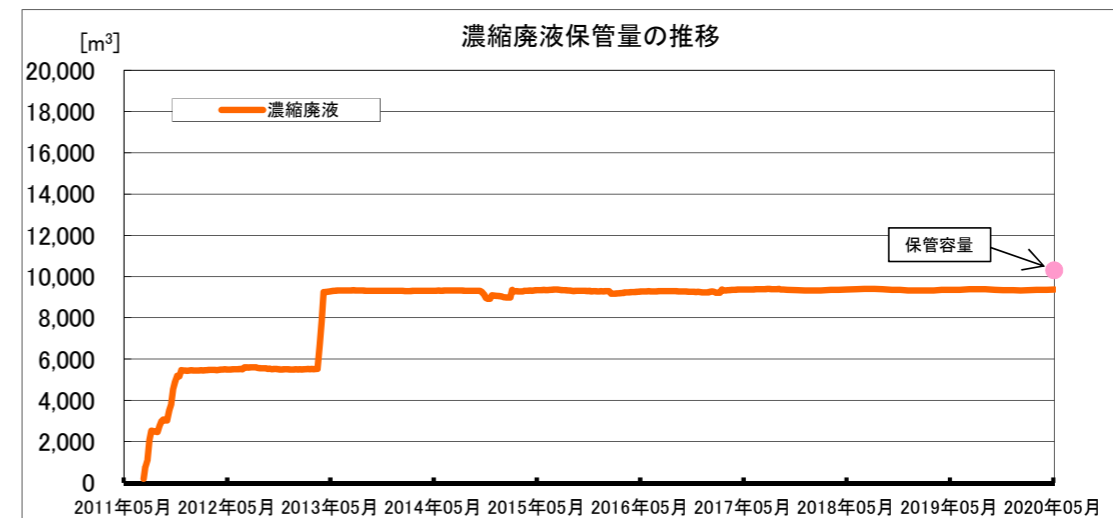
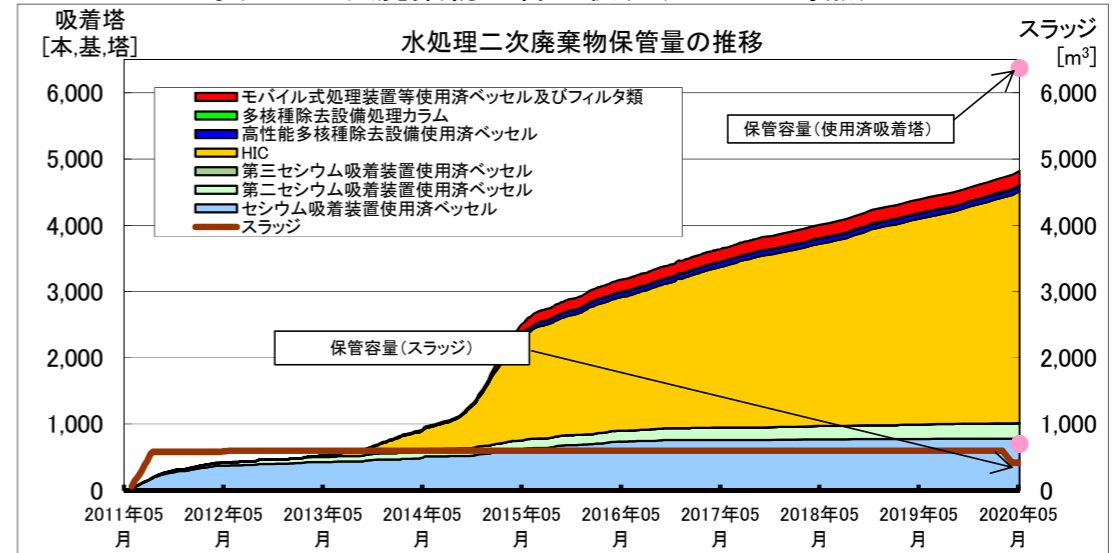
分類	保管場所	種類	保管量	前回集約からの増減 (2020.5.7 - 2020.6.4)	保管量/保管容量 (割合)	トピックス
水処理二次 廃棄物	使用済吸着塔 保管施設	セシウム吸着装置使用済ベッセル	779 本	0 本	4820 / 6372 (76%)	<ul style="list-style-type: none"> 吸着塔一時保管施設の増容量が認可 (2015年12月14日) 使用前検査完了 (2017年5月26日) に伴う保管容量増 (第四施設架台129塔分)
		第二セシウム吸着装置使用済ベッセル	232 本	+2 本		
		第三セシウム吸着装置使用済ベッセル	2 本	0 本		
		多核種除去設備等保管容器	1,777 基	+34 基		
		高性能多核種除去設備使用済ベッセル	74 本	0 本		
		多核種除去設備処理カラム	17 塔	0 塔		
		モバイル式処理装置等使用済ベッセル及びフィルタ類	212 本	0 本		
廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ	417 m ³	0 m ³	417 / 700 (60%)	<ul style="list-style-type: none"> 除染装置の運転計画は無く、新たに廃棄物が増える見込みは無い。 準備が整った際、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。 Dビット除染作業終了に伴い廃スラッジの量が減少した。(2020年4月末) 	
濃縮廃液タンク	濃縮廃液	9,379 m ³	+22 m ³	9379 / 10300 (91%)	<ul style="list-style-type: none"> タンク水位の変動は、計器精度±1%の誤差範囲内。(現場パトロール異常なし) 水位計0%以上の保管量 9,279 [m] タンク底部~水位計の保管量 (DS) : 約100[m] 	

瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2020.5.29時点)



※1 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管量(想定)は、実施計画(2020年6月16日認可)の予測値を示す。
 ※2 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管容量は、運用上の上限を示す。

水処理二次廃棄物の管理状況(2020.6.4時点)



廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議資料
「瓦礫類・伐採木・使用済保護衣類等の管理状況」の訂正について

2020年7月2日

東京電力ホールディングス株式会社

概要

- 「瓦礫類・伐採木・使用済保護衣類等の管理状況(2020.4.30)」の作成・確認を行っていたところ、当該資料内の固体廃棄物貯蔵庫の保管容量の値が、社内管理値※と異なっていることを確認
- そのため、2020年5月28日開催の廃炉・汚染水対策チーム会合 第78回事務局会議の「瓦礫類・伐採木・使用済保護衣類等の管理状況(2020.4.30)」の資料において、固体廃棄物貯蔵庫の保管容量の値を訂正した
 - 訂正前: 45,600m³
 - 訂正後: 48,000m³
- その後、過去の会議資料を調査した結果、2014年7月31日開催の廃炉・汚染水対策チーム会合 第8回事務局会議の「ガレキ・伐採木の管理状況(2014.6.30)」以降の固体廃棄物貯蔵庫の保管容量の値が社内管理値※と異なっていることを確認

※実施計画で認可を得た値に対し、保管状況を考慮して設定した運用管理上の値
(実施計画の値に対し余裕を持った少ない値で管理)

訂正箇所

■ 下記資料中の固体廃棄物貯蔵庫の保管容量の値を下記の通り訂正する

資料名	訂正前	訂正後
廃炉・汚染水対策チーム会合 第8回事務局会議 「ガレキ・伐採木の管理状況(2014.6.30時点)」～ 廃炉・汚染水対策チーム会合 第20回事務局会議 「ガレキ・伐採木の管理状況(2015.6.30時点)」	12,000m ³	19,300m ³ ※2
廃炉・汚染水対策チーム会合 第21回事務局会議 「ガレキ・伐採木の管理状況(2015.7.31時点)」～ 廃炉・汚染水対策チーム会合 第51回事務局会議 「瓦礫類・伐採木・使用済保護衣類等の管理状況(2018.1.31時点)」※1	12,000m ³	14,400m ³ ※2,3
廃炉・汚染水対策チーム会合 第52回事務局会議 「瓦礫類・伐採木・使用済保護衣類等の管理状況(2018.2.28時点)」～ 廃炉・汚染水対策チーム会合 第77回事務局会議 「瓦礫類・伐採木・使用済保護衣類等の管理状況(2020.3.31時点)」	45,600m ³ ※4	48,000m ³ ※2,3,4

※1: 廃炉・汚染水対策チーム会合 第29回事務局会議から、使用済保護衣等の記載が追加されたため、資料名を変更

※2: 2014年6月25日実施計画変更認可(未反映分の訂正)

※3: 2015年7月17日実施計画変更認可(未反映分の訂正)

※4: 固体廃棄物貯蔵庫第9棟運用開始(反映済)

原因と対策

原因

- 「瓦礫類・伐採木・使用済保護衣類等の管理状況」は固体廃棄物の保管量を毎月更新してお示ししているものである一方で、固体廃棄物貯蔵庫の保管容量は頻繁に変更になる値ではない。そのため、当該資料の作成に際して、保管容量の数値の変更管理を失念し、管理状況に応じた管理値の変更や、実施計画変更状況の反映をしていなかった
- また、当該資料を作成するにあたり、手順書は定められていなかった

対策

- 「瓦礫類・伐採木・使用済保護衣類等の管理状況」の作成手順書を作成

(参考)「瓦礫類・伐採木・使用済保護衣類等の管理状況(2020.4.30)」の訂正内容

瓦礫類・伐採木・使用済保護衣類等の管理状況(2020.3.31時点)

分類	保管場所	保管方法	エリア別実存 空容積容量 (m ³ SUS)	保管量	前期末からの増減 ^{※1} (2020.2.28 - 2020.3.31)	変動 ^{※2} 理由	エリア 占有率	保管量 ^{※3} / 保管容量 (割合)	トピックス	
瓦礫類 (0.1m ³ /h以下)	A	屋外集積	0.21	400	m ³	商流	0%	209700 / 266500 (79%)	・フランタタンク鋼線片 2020年3月末時点でコンテナ1,000個貯蔵。 エリア1コンテナ置：622個 (2019年3月19日→) エリアAAコンテナ置：395個 (2019年3月19日→) ・エリアAの棚卸状況により、貯保管量(13,800m ³)増加。 (2020年1月) ・エリアAは1~30m ³ /hの瓦礫類を貯保管物中。これら瓦礫類を固廃庫に 移動、倉庫棟を瓦礫類一時貯保管エリアとして使用予定。	
	B	屋外集積	0.01	5,300	m ³	0	—			100%
	C	屋外集積	0.01未達	63,100	m ³	-100	①②③			100%
	F2	屋外集積	0.01未達	6,400	m ³	0	—			85%
	J	屋外集積	0.01	6,200	m ³	0	—			78%
	N	屋外集積	0.01未達	9,600	m ³	0	—			96%
	O	屋外集積	0.01未達	44,000	m ³	+100	③④			86%
	P1	屋外集積	0.01未達	54,700	m ³	+500	②③			85%
	U	屋外集積	0.01未達	700	m ³	0	—			100%
	V	屋外集積	0.01	6,000	m ³	+100	②③			100%
	AA	屋外集積	0.01未達	13,100	m ³	+600	③			36%
シート類 (0.1~1m ³ /h)	D	シート養生	0.01未達	2,600	m ³	0	—	58%	・エリアWでの車庫解体(プレス等)完了。(2019年1月)	
	E1	シート養生	0.02	14,300	m ³	+100	③	89%		
	F2	シート養生	0.01	5,800	m ³	0	—	64%		
	W	シート養生	0.03	12,100	m ³	+100	②③	41%		
	X	シート養生	0.01	7,900	m ³	0	—	65%		
塵土等・粉塵等 (1~30m ³ /h)	L	塵土等一時保管施設	0.01未達	16,000	m ³	0	—	100%	・主な瓦礫類は、1~3号棟工事等で発生した瓦礫類。 ・塵土等4段の受入開始に伴い、貯保管量(4,000m ³)増加。 (2019年5月) ・エリアAの棚卸状況により、貯保管量(7,400m ³)増加。 (2020年1月)	
	E2	容器 ^{※4}	0.01未達	1,200	m ³	商流	③	68%		
	F1	容器	0.01未達	600	m ³	0	—	99%		
	Q	容器	0.04	0	m ³	0	—	0%		
固廃庫	固廃庫	容器 ^{※4}	0.01	21,800	m ³	+700	②③	48%	21800 / 45600 (48%)	
合計(ガレキ)				292,000	m ³	+2200	—	72%		
伐採木	G	屋外集積	0.01未達	25,300	m ³	0	—	63%	97000 / 130000 (74%)	
	H	屋外集積	0.01未達	31,700	m ³	0	—	74%		
	M	屋外集積	0.01未達	39,600	m ³	0	—	88%		
	V	屋外集積	0.01	400	m ³	+100	③	7%		
	W	伐採木一時保管槽	0.01未達	26,200	m ³	0	—	88%		
一般廃棄物 (紙・塑)	G	伐採木一時保管槽	0.01未達	11,100	m ³	0	—	94%	37300 / 41600 (90%)	
	T	伐採木一時保管槽	0.01未達	11,100	m ³	0	—	94%		
合計(伐採木)				134,300	m ³	+100	—	77%		
保護衣類	保管	容器	0.02	46,400	m ³	-1,800	③	68%	46400 / 68300 (68%)	
合計(使用済保護衣類等)				46,400	m ³	-1,800	—	68%		

東京電力ホールディングス株式会社
放射性廃棄物処理・処分
2020年4月30日

保管場所

~

保管量^{※3} / 保管容量
(割合)

}

固廃庫

~

21800 / 45600
(48%)

↓

正: 48000(m³)

水処理二次廃棄物の管理状況(2020.4.2時点)

分類	設備箇所	種類	数量	前期末からの増減 (2020.3.6 - 2020.4.2)	数量 / 保管容量 (割合)	トピックス	
水処理二次廃棄物	使用済吸着剤 保管施設	セシウム吸着剤使用済バケツ	779	本	0	4718 / 6372 (74%)	・最終一時貯保管施設の増設が完了(2019年12月14日) ・増設が完了(2017年5月25日)に付、貯保管量増加
		第二セシウム吸着剤使用済バケツ	230	本	+2		
		第三セシウム吸着剤使用済バケツ	2	本	+1		
		多核種除去設備保管容器	1,727	基	+8		
		高性能多核種除去設備使用済バケツ	1,677	基	+17		
		高性能多核種除去設備処理カラム	74	本	0		
廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ	多核種除去設備処理カラム	17	基	+2		
		モバイル式処理設備使用済バケツ及びフィルタ類	212	本	+2		
廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ	597	m ³	0	597 / 700 (85%)	・貯保管量の増設計画はなく、新たに貯保管物が増える見込みはない。 ・容量が残り1割、貯保管量の増設について実施計画の策定中である。	
濃縮廃液タンク	濃縮廃液	9,356	m ³	+11	9356 / 10300 (91%)	・タンク内の貯保管量(計画容量)は4%の増減あり。(2019年10月現在) ・水の貯保管量(計画容量)は82%あり(2020年4月現在) ・タンク内貯保管量(貯保管容量)は100%あり	